

一般社団法人園芸学会令和元年度（2019年度）秋季大会シンポジウム

来る9月15～17日に島根大学で開催される一般社団法人園芸学会令和元年度秋季大会において、下記の課題によりシンポジウムが開催されます。いずれも公開シンポジウムで、学会員以外の方も参加できます（参加費無料）。最先端の園芸学研究について広く知っていただく良い機会ですので、皆様のご参加をお待ちしております。

日時：令和元年9月15日（日）13時30分～17時

場所：島根大学 松江キャンパス（〒690-8504 島根県松江市西川津町1060）

I. 温暖化がバラ科果樹の休眠や開花に与える影響

～機構解明とその利用・現場対策～（公開シンポジウム）

会場：教養講義室棟2号館3F 604教室

コンピーナー：山根 久代（京都大院農学研究科）

1. わが国における気候変動と果樹の休眠、開花の変化

杉浦 俊彦（農研機構果樹茶部門）

2. 野生種イチゴの花成制御に関する研究

黒倉 健（宇都宮大農学部）

3. バラ科果樹の低温要求性制御機構に関する研究

山根 久代（京都大院農学研究科）・北村 祐人（和歌山農林水産部）

4. 西南暖地におけるニホンナシ発芽不良の原因と対策

伊東 明子（農研機構本部）

5. 核果類果樹における低低温要求性育種の取り組み

末貞 佑子（農研機構果樹茶部門）

6. 総合討論

II. アブラナ科野菜のゲノム・エピゲノム育種の現状と課題（公開シンポジウム）

会場：大学ホール

コンピーナー：藤本 龍（神戸大院農学研究科）

1. はじめに；アブラナ科野菜のゲノム・エピゲノム研究について

藤本 龍（神戸大院農学研究科）

2. 根こぶ病抵抗性の遺伝子マーカー開発に向けて

畠山 勝徳（岩手大農学部）

3. アブラナ科野菜の難抽だい性品種育成に向けた春化研究

板橋 悦子（農研機構野菜花き部門）

4. アブラナ科植物の花粉・柱頭不和合性機構について

高田 美信（東北大院生命科学研究所）

5. 次世代シーケンサーを活用した、様々な実用作物における農業上有用な形質遺伝子の同定・単離

清水 元樹 (岩手生物工学研)

6. 植物のエピジェネティクス – その基礎と園芸植物への応用の可能性 –

佐々木 卓 (東京大院理学系研究科)

7. 総合討論

Ⅲ. 園芸植物の多様な香りとそれを活かす取り組み (公開シンポジウム)

会場：教育学部棟 3F 35 教室

コンビーナー： 大久保直美 (農研機構野菜花き部門)

1. 園芸植物を例にした香気成分生成メカニズム

飯島 陽子 (神奈川工科大)

2. 和種ハッカの香りが持つデオドラント効果について

妙田 貴生 (東京農業大)

3. 香料基原となる植物の香気分析

服部 雄飛 (三栄源エフ・エフ・アイ(株))

4. 香りを活かした花きの販売戦略

大久保直美 (農研機構野菜花き部門)

5. 採れたて果実の香りと飲食時の香り分析を活かした香料開発

堀内 政宏 (高田香料(株))

6. ユズの香りとその利用

沢村 正義 (馬路村農協・高知大名誉教授)

7. 総合討論

* 本シンポジウムは、科研費 研究成果公開發表 (B) 19HP0017 の助成を受けたものです。

Ⅳ. 園芸作物におけるゲノム編集技術の利用と社会実装への取り組み (公開シンポジウム)

会場：教育学部棟 2F 20 教室

コンビーナー： 佐々木克友 (農研機構野菜花き部門)

1. 農作物開発に利用できるゲノム編集技術の紹介

–SIP 次世代農林水産業創造技術における取り組み–

廣瀬 咲子・遠藤 真咲 (農研機構生物機能部門)

2. 花きのゲノム編集で何ができるか

佐々木克友 (農研機構野菜花き部門)

3. アブラナ科作物へのゲノム編集技術の利用

奥崎 文子・肥塚 信也 (玉川大農学部)

4. ゲノム編集トマトの社会実装に向けて

住吉美奈子¹・江面 浩^{1,2} (¹サナテックシード(株)・²筑波大)

5. ゲノム編集農作物及び食品の規制に関する日本及び世界の動向

田部井 豊 (農研機構企画戦略本部)

6. 総合討論